

(表面からの続き)

暑さ寒さも彼岸まで、この言い回しには、たいへんなことがあってもいつかは乗り越えられる、だから今を耐え忍ぼう、そんな意味も含まれているようです。今年の酷暑にはまさに当てはまることばですが、そんな人生訓に「神は」との主語を付けて、すべての事柄の背後に神の支配があることを意識するならば、また違った風景が見られるのかもしれない。とても神の支配があるように思えない悲惨な現実が無数にあるのは事実。まずは何が起こったか、起こっているのか真実に向き合うところからでしょう。でも、そこで留まりたくない。地上の現実を取り巻く神の真実があること、この真実になんとしてみつきたいのです。



キリスト教の基礎知識 【天の御国】

天国？

みなさんは「天国」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。キリスト教徒でない人々でも、死んだ後に人々が行くところという漠然としたイメージを持っているのかもしれない。漫画やイラストなどでは、雲の上で頭に輪をつけ、背中に羽をつけた人々が白い衣を着てハープを弾いているような姿が描かれたりします。そして、「天国」という概念はキリスト教から来ていると考えている人も多いでしょう。

聖書における「天の御国」

たしかに聖書の中には「天国」に似た言葉が出てきます。新約聖書のマタイの福音書には、「天の御国」(別の訳では「天の国」)という言葉が出てきます。けれども、「天国」と「天の御国」は似て非なるものなのです。

聖書に出てくる「天の御国」という言葉は、原語をもう少し正確に訳すと「天の王国」という意味です。そして、ここでいう「天」とは「神」の言い換えであり、「王国」とは「王」としての支配」ということです。聖書の別の箇所では「神の国」と書かれています。つまり「天の御国」とは、神の聖なる支配が表されている状態を表しているのです。神は正しい方であり、愛に満ちたお方ですので、神の支配される場所には正義や平和と愛があります。

そして最も大切なポイントは、この神の王国はどこか遠くの別世界にあるのではなく、私たちが生きているこの地上の現実世界のただ中に表される、ということなのです。ですから、聖書が教える「天の御国」とは、一般に言われる「天国」のように、人が死んでから行く楽園のような場所を指すのではなく、私たちが生きているこの地上に神のみこころが実現していくものなのです。

御国が来ますように

聖書の中に、イエス・キリストが弟子たちに教えた「主の祈り」と呼ばれる有名な祈りの言葉が記されています。その中次のような一節があります。

み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。

ここでは「(天の)御国」が地上に来るように、と祈られています。繰り返しますが、天の御国は人が死んでから行くところではありません。そうではなく、神のみこころが地上に表されることを言っているのです。それは、戦いや憎しみ、分裂に満ちた世界に、愛と平和が訪れることです。

多くのキリスト教会では、この祈りを毎週日曜日の礼拝でさげています。みなさんもぜひ教会を訪れて、この祈りに加わってみませんか。



聖書を読む会 (ヨナ書) 神の永遠の愛 (ヘセドの愛)

ヨナ書は、今から2500年以上も前に記されたと考えられる非常に短い書です。普通の預言書と異なり、預言者に与えられた神の託宣を収録するのではなく、一人の預言者・ヨナの身に起こった一つの出来事を描写しています。

ヨナは神様から使命を与えられたのに、「主の御顔を避けて」逃げています。

神からの使命は我慢の出来ないものでした。

ヨナ書は、ヨナの逃避とヨナに神に対する憤りを通して逆説的に限界のない、あまりに寛容すぎると思われるほどの神の愛を示そうとしています。

イスラエル人のヨナが驚き、憤るほどに、また彼が妬むほどに神は寛容なお方であること、この書は示そうとしています。



この物語の神の態度は、イエス様の「放蕩息子」のたとえで語られた息子に対する父親の態度とよく似ています。父親の息子に対するあまりにも寛容な態度に、息子は憤って家に入ろうとしなかった……

「この神様の永遠の愛(ヘセドの愛)、これがヨナ書の大切なテーマなのです。」

私たちは、「この短い書を通して神の心を垣間見ることが出来ます。」

神はヨナを叱るのでもなく、罰するのでもなく、ささやくことよによって悟らせようとします。ヨナの中に愛が芽生えるのを辛抱強く待っているのです。



★天文ひとくちメモ

日中の酷暑が終わらない今年の九月ですが、さすがに夜となれば少しだけ涼しい風が吹いて来ます。夜空の星を見て秋を先取りしましょう。とは言え夜九時頃に見上げれば、夏の大三角がまだ真上に見えています。すから、暑い夏とともに大三角にも別れを告げたいですね。

今年秋の注目は惑星三つです。まずは南東から南の中天にぼつんと見える明るい星が土星。双眼鏡では米粒状の楕円形、望遠鏡では立派な輪が見えますよ。土星の左下にやや暗い星が見えたら、それはみなみのうお座の一等星フオーマルハウトです。同じ頃、東の低空にとても明るい星が見えたら、それは木星です。太陽系最大の惑星で、双眼鏡でも四つの衛星がすぐ近くに見えますよ。望遠鏡なら本体の縞模様もバッチリ見えます。

そして明け方。東の低空でこぼれ落ちるように強烈な光を放つのが金星です。今月一九日最大光度に達し、明るさはマイナス四・八等。ざっくり言えば、普通の一等星の百倍の明るさです。金星を取り巻く厚い雲が太陽光をよく反射するからですが、英語名ヴィーナスとはよく言ったものです。和名の「金星」もけっこういいけてますでしょうか。



無料でダウンロードできる
スマホアプリ



聴くドラマ聖書

Japanese Drama Bible

Grace & Mercy

日本 G & M 文化財団



聴くドラマ聖書 PC版 : <https://dramabiblejapan.org>

＜定期集案内＞

- 主日礼拝 毎週日曜日 午前10時30分
★一週間の始まりを、まことの神礼拝から。初めての方も歓迎です。新型コロナウイルス感染防止対策に努めながら少人数での礼拝を実施しています。聖書や讃美歌集はお貸します。参加をご希望の方は事前にご連絡をお願い致します。
- 祈禱会 第2第4水曜日 午後7時30分
★新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現在は休止しています。再開の情報はホームページまたは下記の間合せ先にご確認ください。
- みことばの分かち合い 第1日曜日 礼拝後(変更になる月があります)
★聖書をみんなで読み、学んだことや感想を分かち合い、深く味わう会です。お問い合わせは、電話045-572-0857 牧師:関野祐二までどうぞ。